

決算説明会資料

2019年度（2020年3月期）

DOWAホールディングス株式会社

2020年5月27日

2019年度実績① 業績概要

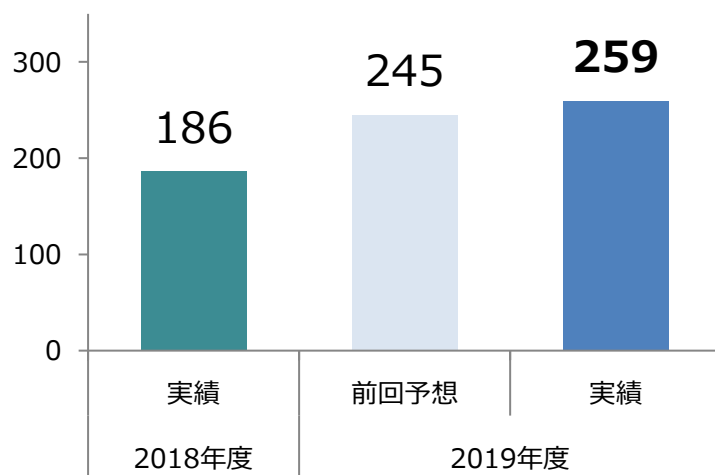
(単位：億円、億円未満切り捨て)

	2018年度 実績 ①	2019年度		比較増減			
		前回予想 ②	実績 ③	前年比 (③ - ①)		前回予想比 (③ - ②)	
売上高	4,529	4,800	4,851	322	7%	51	1%
営業利益	186	245	259	72	39%	14	6%
経常利益	243	300	289	46	19%	△ 10	△3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	149	200	173	24	16%	△ 26	△13%

✓ 2019年度は、前年比で増収・増益を達成

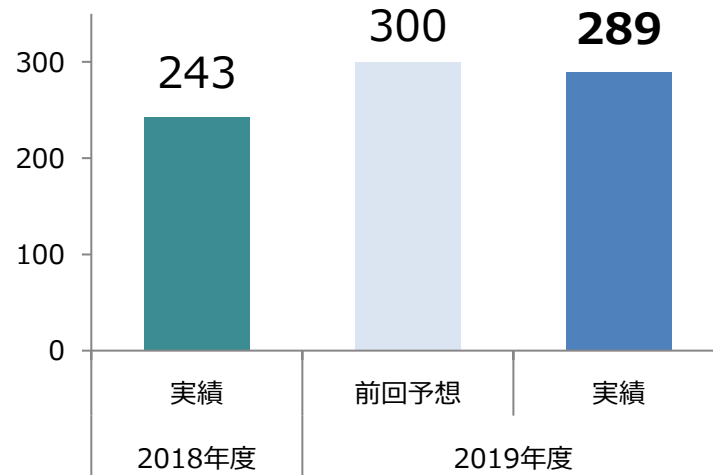
■ 営業利益推移

(単位：億円)

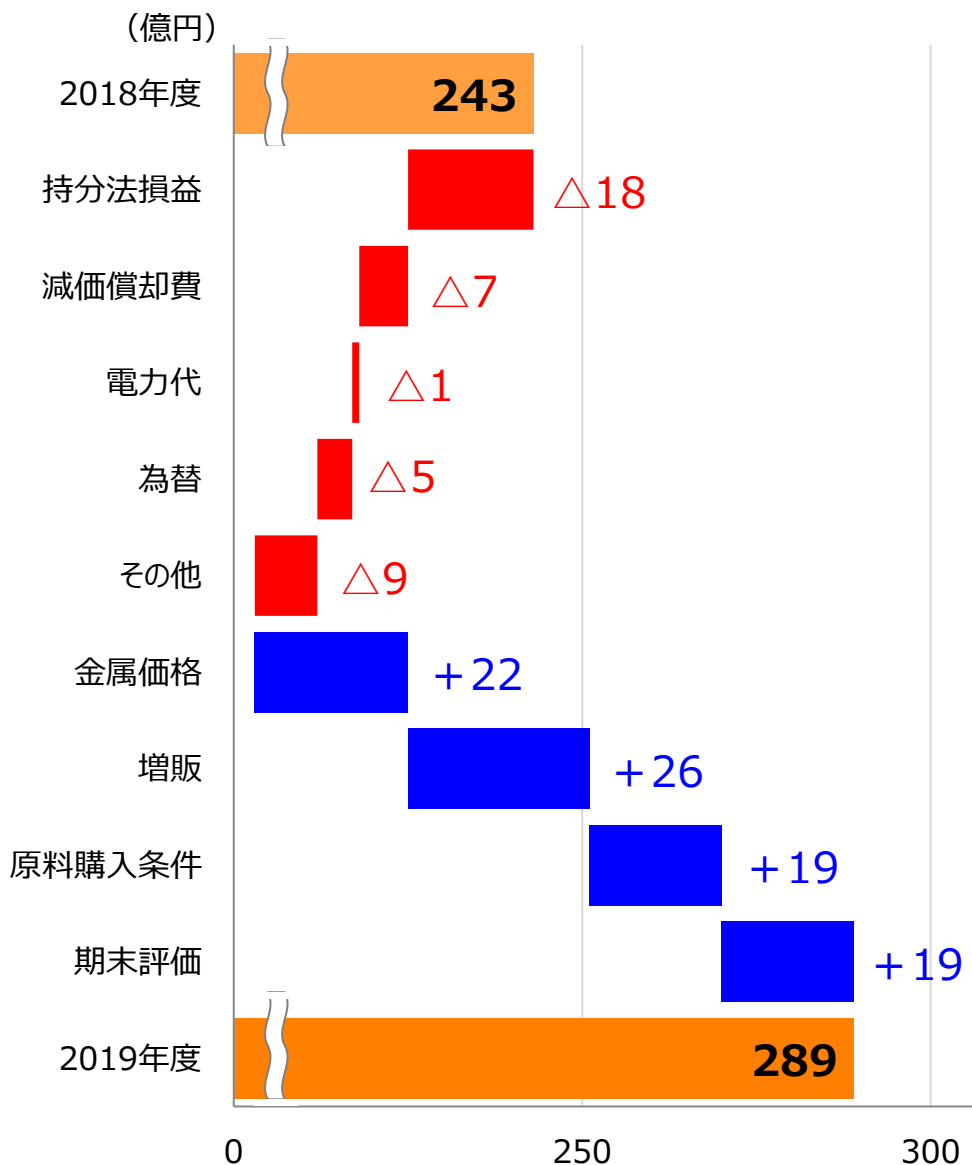


■ 経常利益推移

(単位：億円)



2019年度実績② 経常利益の増減分析



主な増減要因

- ・海外鉱山など製錬部門の持分法適用会社が減益
- ・成長投資を継続実施
- ・亜鉛製錬における電力単価の上昇
- ・円高の影響 (110.9円/ドル⇒108.7円/ドル)
- ・為替差損 ほか
- ・ベースメタルの価格は下落も貴金属価格が上昇
- ・自動車関連製品の需要は低迷するも、国内廃棄物の単価増、銀粉の需要回復などが増益に寄与
- ・亜鉛原料の購入条件 (T/C) が改善
- ・亜鉛原料の購入条件改善により、低価法損失が縮小

前年比46億円の増益

貴金属の価格上昇効果に加え、拡販への取り組みや原料条件改善の効果が実現

2020年度の見通し① 業績予想および配当予想

新型コロナウイルス感染症の拡大は、当社グループの業績に影響を与え始めています。直近の状況を次項以降に記載しておりますが、いずれの影響についても、先行きが不透明な状況にあります。

従って、現時点で今後の業績を合理的に算定することが困難であるため、2020年度の業績予想および配当予想については未定としております。

なお、今後、業績予想および配当予想の開示が可能となった段階で、速やかに公表いたします。

2020年度の見通し② 足元の操業状況

2020/5/26現在

当社グループの拠点所在地：●環境・リサイクル事業 ●製錬事業 ●金属加工事業 ●熱処理事業 ●コーポレート部門

【ドイツ、チェコ】

感染症対策を実施しながら、
操業を継続

ドイツ チェコ

【日本】

感染症対策を実施しながら、
操業を継続

中国

台湾

インド

ミャンマー

シンガポール

インドネシア

【インド】

ロックダウンに伴い操業を一時停止も、
5月中旬より操業を再開

タイ

【米国、カナダ】

感染症対策を実施しながら、操業を継続

【メキシコ】

政府令を受けて自動車関連拠点およびロス・ガトス
鉱山が操業停止中、いずれも6月初より再開予定

カナダ

米国

メキシコ

【中国、台湾、ミャンマー、タイ、シンガポール、インドネシア】

感染症対策を実施しながら、操業を継続

2020年度の見通し③ 需要の動向

■ 環境・リサイクル

- ・ 国内および東南アジアにおける経済活動や生産活動の停滞が長期化した場合、産業廃棄物やリサイクル原料の集荷量が漸減する可能性

■ 製錬

- ・ 3月中旬より金属価格が下落し、総じて前年実績を下回る水準
- ・ 上昇を続けていた白金族金属の価格も反転下落
- ・ 自動車メーカーの減産・操業停止の影響により、銅・亜鉛の地金需要も減少

■ 電子材料

- ・ 自動車向け、産業機械向け製品の需要は、前年比で減少の見通し
- ・ 太陽光パネル向け銀粉の需要は堅調を維持、各国での経済活動の停滞により、太陽光パネル導入が先細る可能性

2020年度の見通し④ 需要の動向

■ 金属加工

- ・ 自動車メーカーの減産・操業停止により、伸銅品・めっきの需要が前年比で減少
- ・ スマートフォン向け伸銅品や産業用ロボット・鉄道向け金属-セラミックス基板は、需要への影響は限定的

■ 熱処理

- ・ 自動車メーカーの国内外での減産・操業停止により、熱処理加工需要が減少
- ・ 設備投資や設備メンテナンスについても、延期となる案件が増加

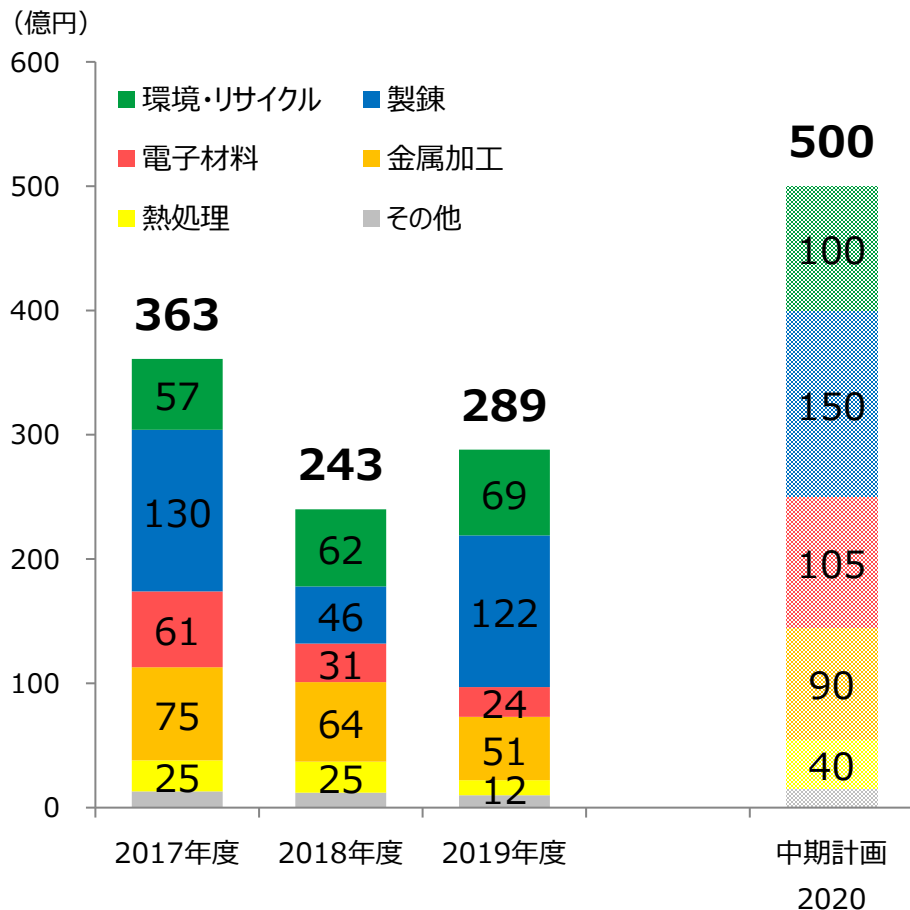
2020年度の基本方針

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を冷静に見極め、適切に対処する
- ・ 「中期計画2020」に盛り込んだ、成長に向けた施策を着実に実行する

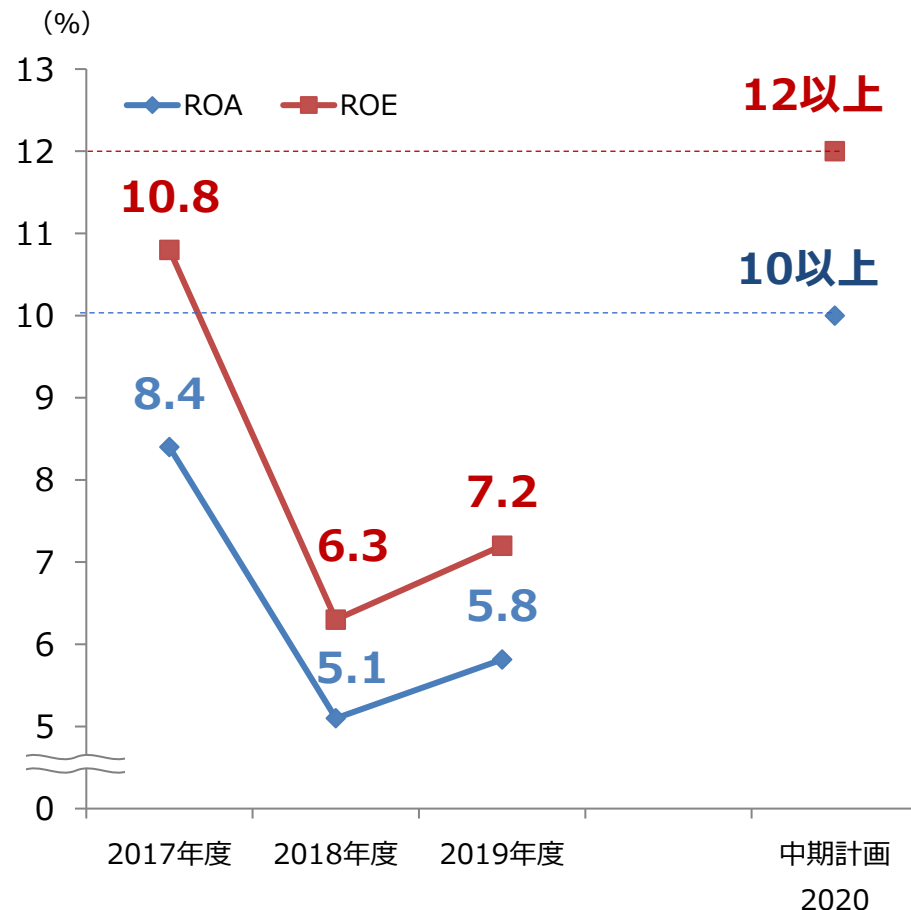
中期計画2020レビュー 財務面の進捗状況

財務レビュー① 経常利益、ROA・ROE

経常利益



ROA・ROE

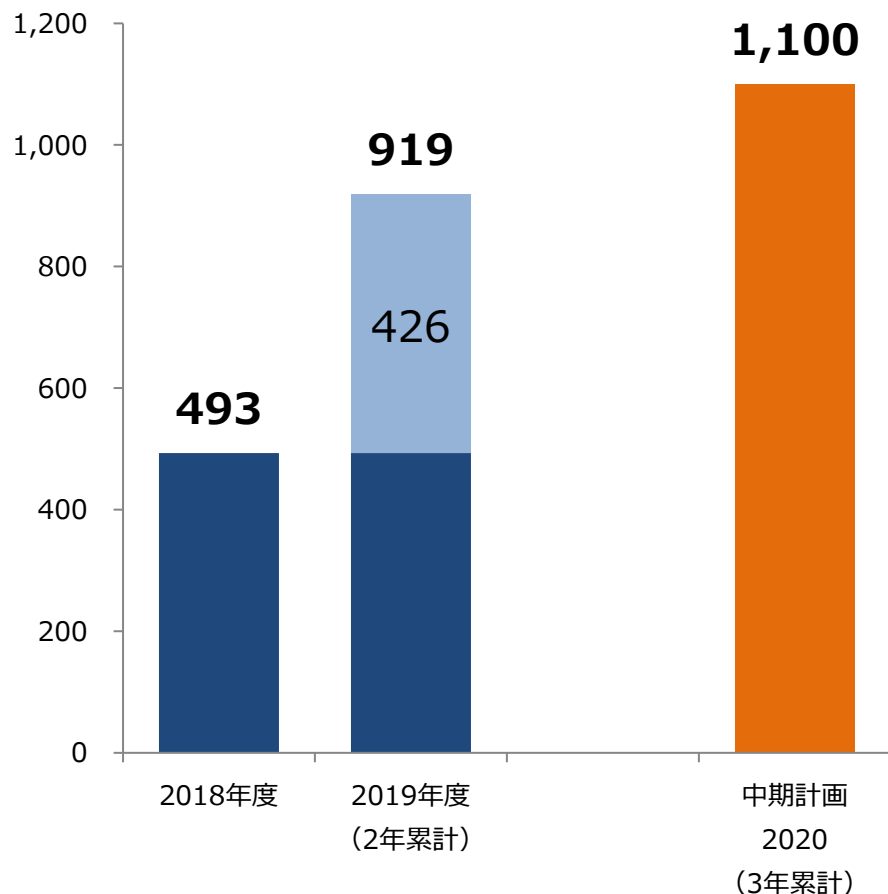


外部環境の変化もあり、中期計画における目標利益の達成は厳しい状況

財務レビュー② 投融資、研究開発費

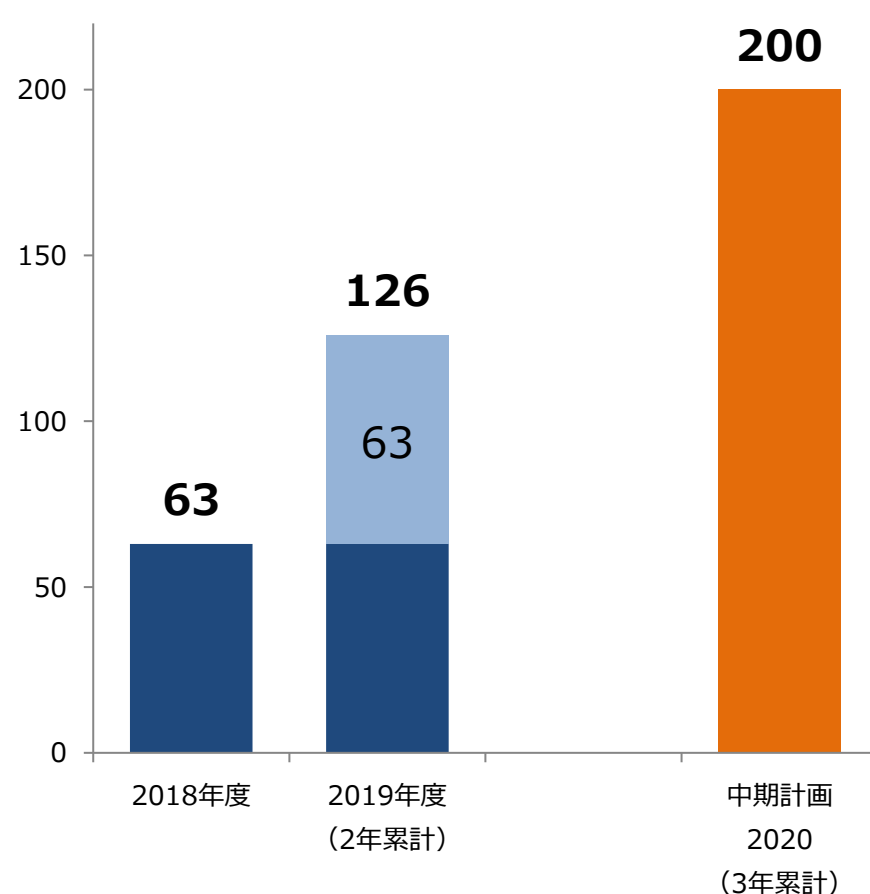
投融資

(億円)



研究開発費

(億円)



投融資および研究開発は、概ね中期計画に沿った進捗状況

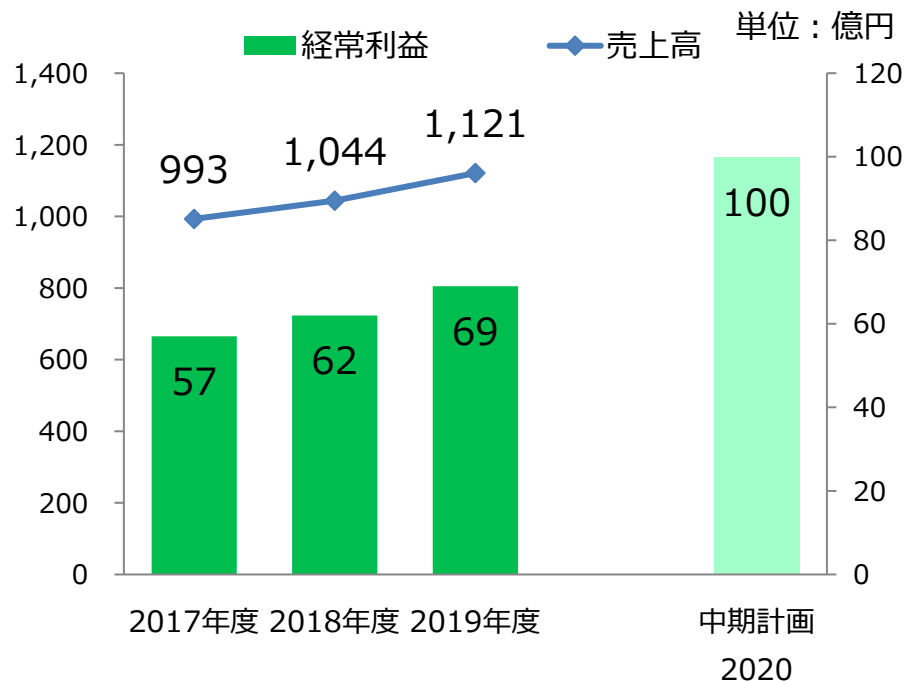
中期計画2020レビュー 各セグメントの進捗状況

環境・リサイクル① 事業概況（2019年度の振り返り）

事業環境の変化（中期計画比）

- ・国内廃棄物 焼却処理：処理量は若干減少も、処理単価は緩やかに上昇
溶融・再資源化：処理量は概ね中期計画どおりの進捗
低濃度PCB：発生量は横ばい、処理単価は大きく下落
- ・リサイクル：廃電子基板、自動車シュレッダーダスト、廃家電ともに発生量堅調
- ・東南アジア：タイおよびシンガポールにおいて集荷競争が激化

KPIの進捗

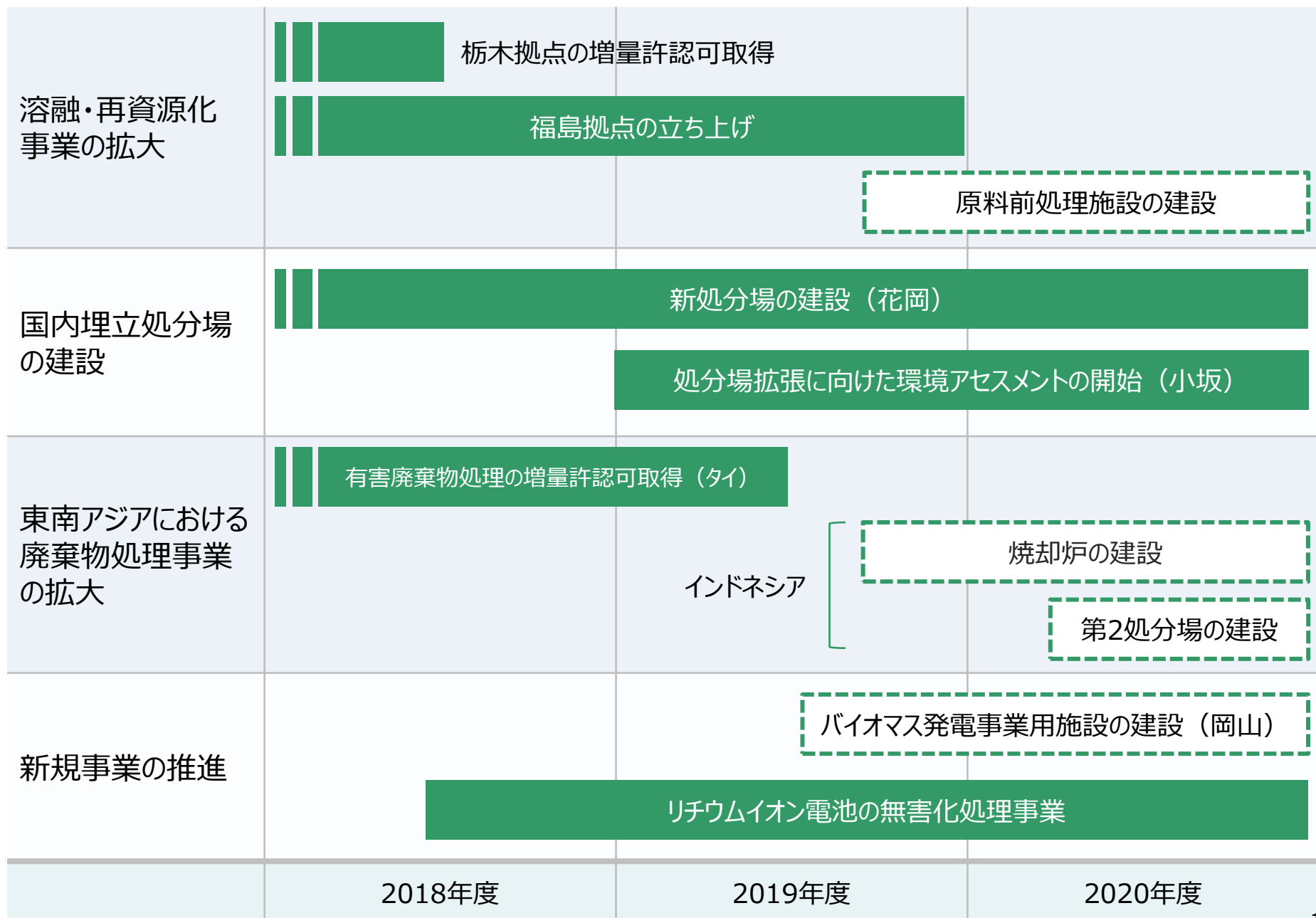


《主要製品の数量動向》

(中期計画2020 = 100)

	2018年度	2019年度	中期計画2020
国内廃棄物中間処理量	87	91	100
溶融・再資源化処理量	75	83	100
東南アジア廃棄物処理額	76	75	100
家電リサイクル処理台数	117	127	100

環境・リサイクル② 中期計画における主要施策の進捗状況



環境・リサイクル③ 国内における事業展開

■ 廃棄物処理、自動車・家電リサイクル事業

中国の環境規制強化などにより、日本国内の廃棄物・リサイクルの物量は増加

複数拠点、受入能力、広域エリアをカバーする集荷により、市場の変化に対応し処理量を拡大

■ 溶融・再資源化事業

自治体での処理から民間企業への溶融・再資源化処理委託が拡大

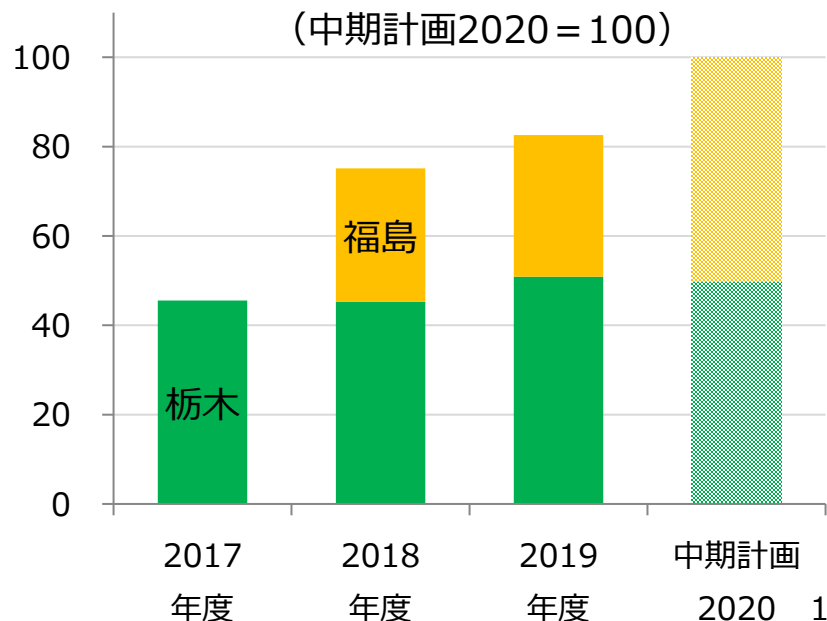
- ・栃木、福島の2拠点体制で需要を取り込み
- ・処理量の拡大に向けて、原料前処理施設の建設を開始、2021年初に稼働予定

当社の処理量の推移（2017年度 = 100）

	2017年度	2018年度	2019年度
国内廃棄物中間処理量	100	99	103
自動車リサイクル処理量	100	104	103
家電リサイクル処理台数	100	108	117

↑ 中国規制強化

溶融・再資源化の処理量推移
(中期計画2020 = 100)



■ インドネシアにおける事業拡大

- ・焼却炉：建設開始、2021年度に稼働予定
- ・第2処分場：環境アセスメント完了、近々着工予定
= 埋立等に適さない廃棄物の適正処理ニーズの
取り込み、埋立容量の拡大

同国で唯一、有害廃棄物処理事業を総合的に展開
→ 拡大が見込まれる有害廃棄物の処理ニーズを取り込む

■ 新規事業の展開

- ・食品廃棄物を原料とするバイオマス発電事業：2021年4月に稼働開始を予定
- ・リチウムイオン電池の無害化処理事業
 - 熱処理によって感電や発火の危険性を除去（リサイクルの前処理のポジション）
 - **すでに秋田・千葉・岡山拠点で事業化** → 後工程の増強、リサイクル技術の開発を推進



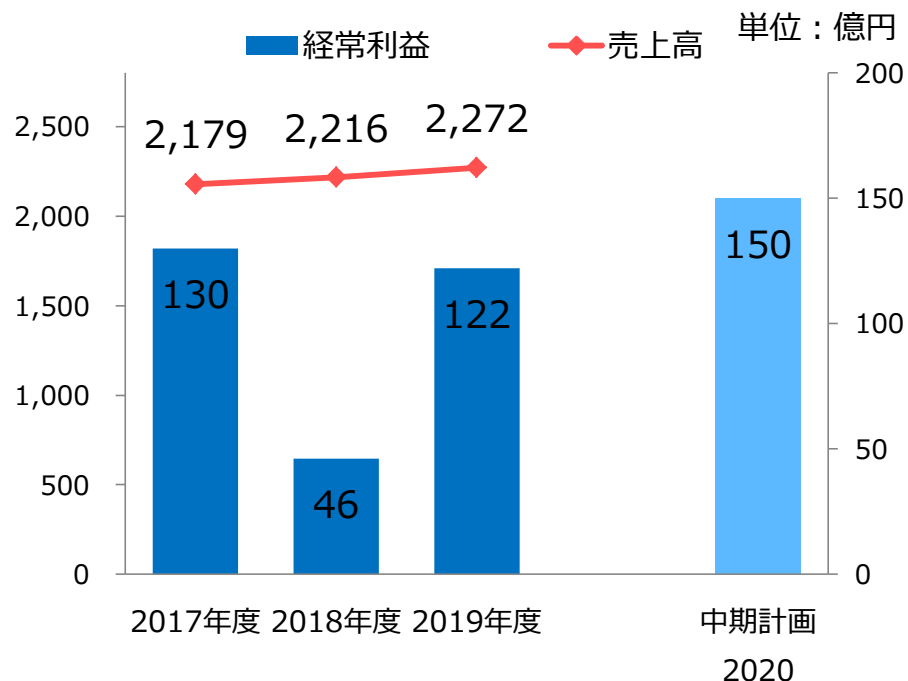
インドネシアに導入予定の焼却炉
(シンガポールの焼却炉と同タイプ)

製錬① 事業概況（2019年度の振り返り）

事業環境の変化（中期計画比）

- ・地金需要：銅は概ね中期計画2020の想定並み、亜鉛は減少
- ・金属価格：ベースメタルは軟調、白金族金属（PGM）を含む貴金属は高騰
- ・原料調達：亜鉛精鉱やリサイクル原料（廃電子基板、使用済み自動車排ガス浄化触媒）の調達環境は改善

KPIの進捗

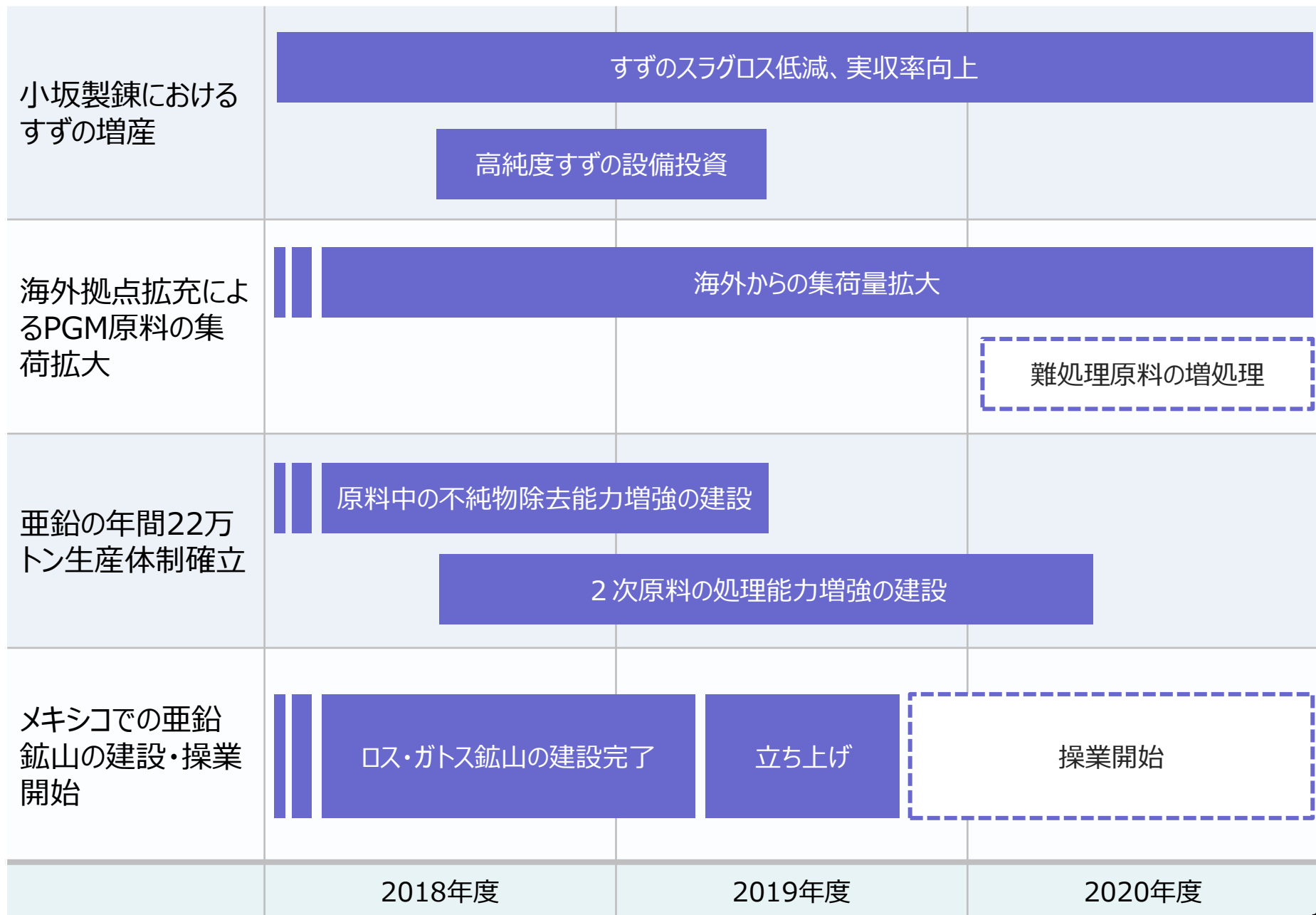


《主要製品の数量動向》

(中期計画2020 = 100)

	2018年度	2019年度	中期計画2020
銅生産量 (小坂・小名浜)	91	93	100
金生産量 (小坂)	98	104	100
亜鉛生産量 (秋田)	95	92	100

製錬② 中期計画における主要施策の進捗状況



製錬③ 製錬事業の展開

製錬・リサイクル複合コンビナートの強み

複数工程を組み合わせ、約20種類の有価金属を回収、貴金属の回収能力が高い

亜鉛の原料購入条件の改善や貴金属価格の高騰などを追い風にして収益を改善

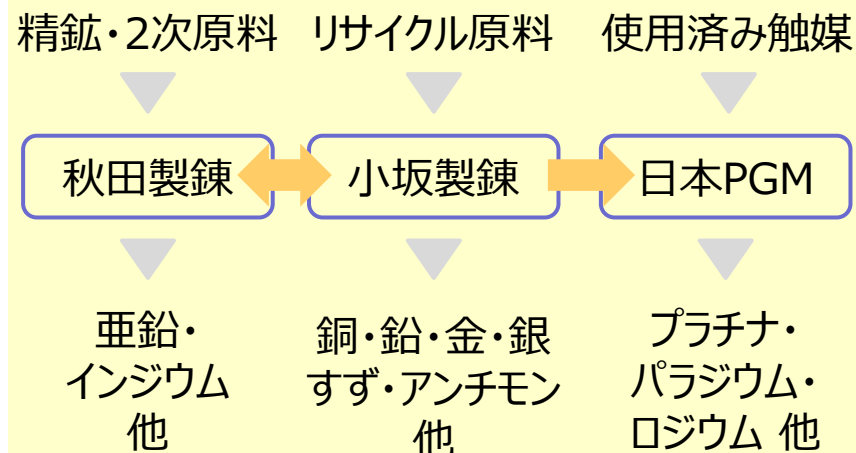
PGM回収事業の拡大

中期計画2020で掲げた1,000t/月の集荷・処理を前倒しで達成

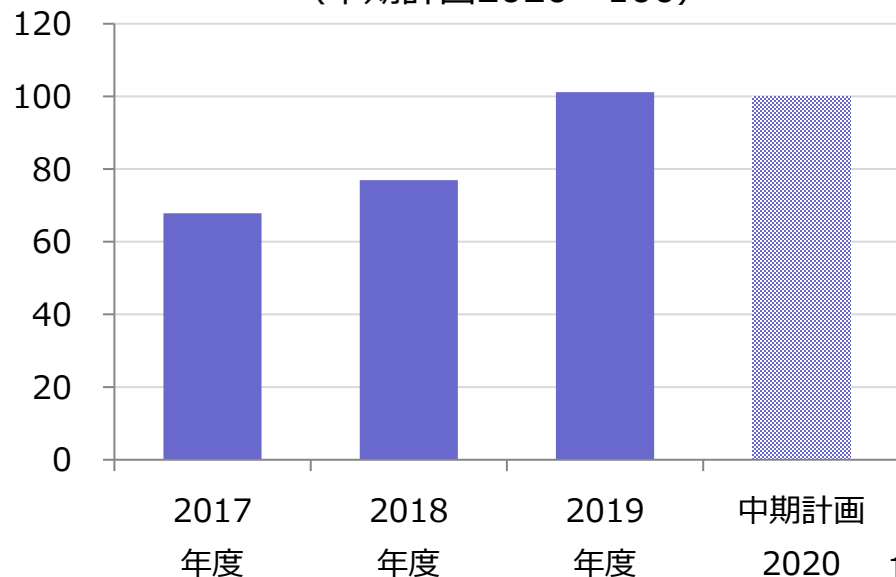
今後も安定的に1,000t/月超を達成するために、以下施策に取り組む

- ・海外集荷拠点の拡充、新規顧客開拓
- ・難処理原料の増処理
- ・サンプリング工程の生産性向上

製錬・リサイクル複合コンビナート



PGM回収事業の処理量推移
(中期計画2020 = 100)



製錬④ 亜鉛事業の環境変化

■ 亜鉛市況の変化

地金需要は減少し、金属価格も下落
原料購入条件は2020年も改善の見通し

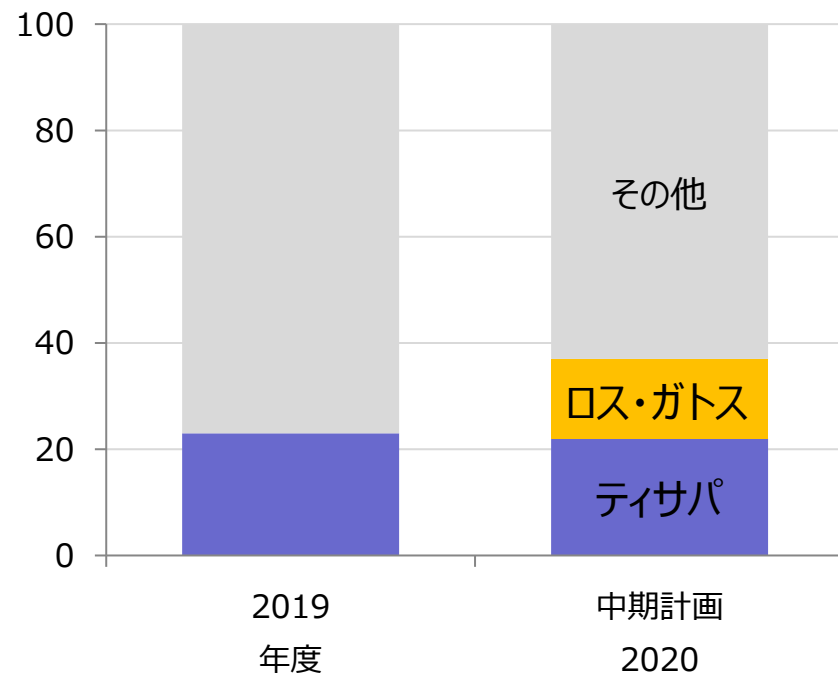
■ ロス・ガトス鉱山の立ち上げ状況

2019年7月に精鉱の生産を開始、足元の生産量はF/S想定 $2,500\text{t/日}$ をほぼ達成
→ 金属含有量の高いゾーンの採掘に向けて坑道掘進速度を上げる対策を推進

■ 秋田製錬の原料中の不純物への対応

- ・原料中の不純物除去能力の増強、2次原料の増処理の投資効果を発揮
 - ・中長期的な増産に向けて、不純物対応力強化の追加投資を計画
- 原料の不純物対応力を高める取り組みを継続

亜鉛製錬の自山鉱比率
(鉱石原料のみ)

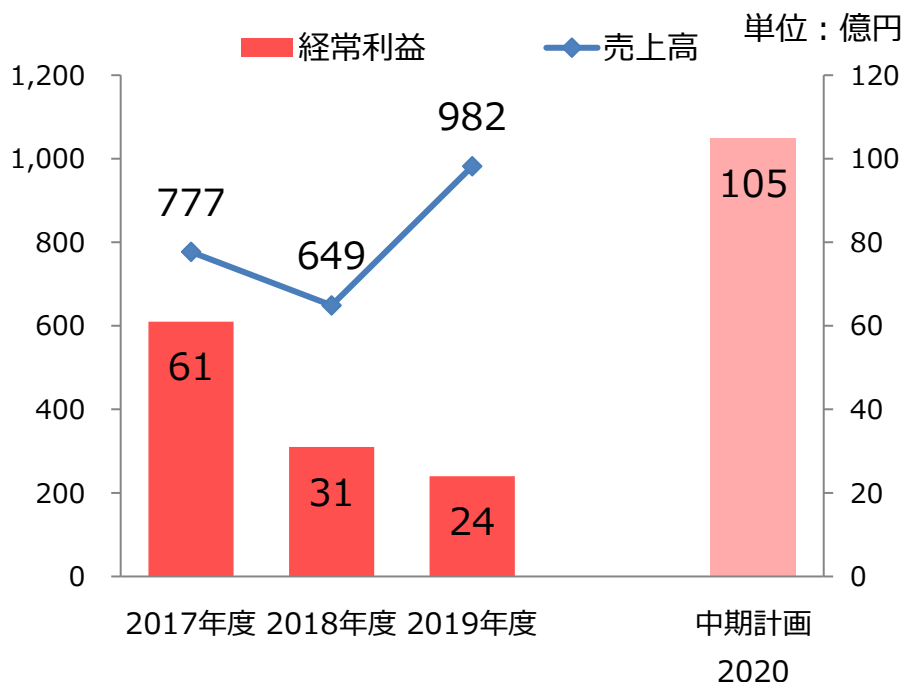


電子材料① 事業概況（2019年度の振り返り）

事業環境の変化（中期計画比）

- ・LED スマートフォン：近接センサ用の製品ライフ終焉、鮮度センサ用の立ち上がりも遅延
ウェアラブル機器：健康志向などによる多機能ニーズは高まっており、需要は拡大の兆し
- ・銀粉 太陽光パネル：発電効率の高い新型パネルが再生エネルギー拡大を牽引
- ・新規製品 要求品質を達成し顧客認定は進むも、市場の立ち上がりは遅延
電子部品(MLCC等)は、車載向けは低調。通信基地局向け需要は拡大

KPIの進捗



《主要製品の数量動向》

(中期計画2020 = 100)

	2018年度	2019年度	中期計画2020
LED販売量	62	48	100
銀粉販売量	68	86	100
新規製品収入 (サンプル代金など)	12	19	100

電子材料② 中期計画における主要施策の進捗状況

新規導電材料の ラインナップ拡充	ナノ銀粉	用途開発・量産設備の建設	
	導電性アトマイズ粉	用途開発・量産設備の建設	
新規LEDの 開発・量産化	近赤外LED 完成	鮮度センサ・血糖値センサ等 に向けた新規品を製品化	量産設備の建設
深紫外LEDの 拡販	深紫外LEDの拡販	殺菌向け市場は立上がり遅延 医療用などへの拡販、高光出力・信頼性で差別化	
銀粉の高シェア 堅持	高発電効率の新型パネル用セル配線の細線化進展に対応		
	2018年度	2019年度	2020年度

電子材料③ 新規製品の進捗状況①

■ 燃料電池材

燃料電池は、海外での新エネルギー導入促進政策により、非常用電源向け需要が拡大の見通し

→ 空気極（プラス極）向けへの拡販を継続

■ ナノ銀粉

電子部品の小型化・多搭載に伴い、誤作動を防ぐ電磁波シールドのコストダウン要求が高まる

→ コスト重視の顧客プロセスへの合わせ込みにより顧客認定を獲得、量産開始が具体化

■ 導電性アトマイズ粉

5Gモデルへの切り替わりに伴いMLCC需要が拡大当社粉が採用され、受注拡大の見通し

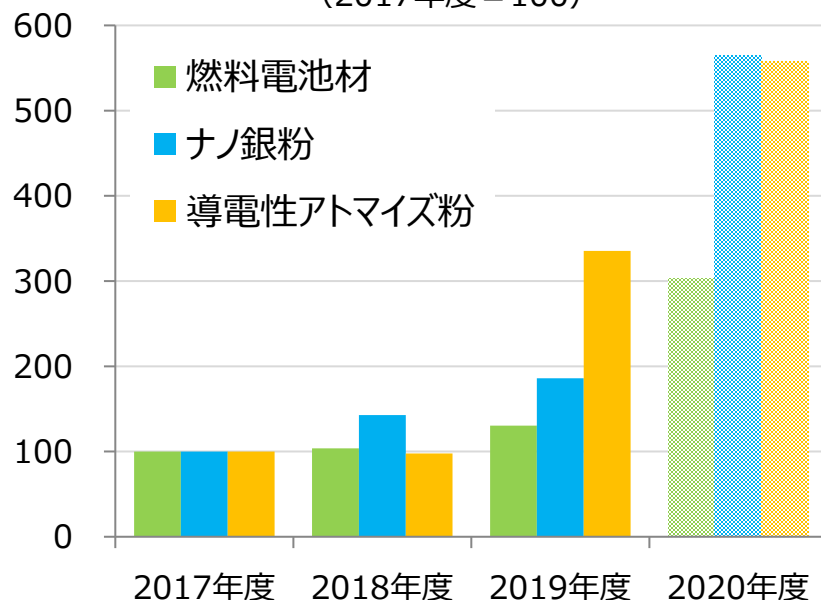
→ 生産性の改善、生産能力の向上に取り組む



非常用電源

サンプル収入・売上高

(2017年度 = 100)



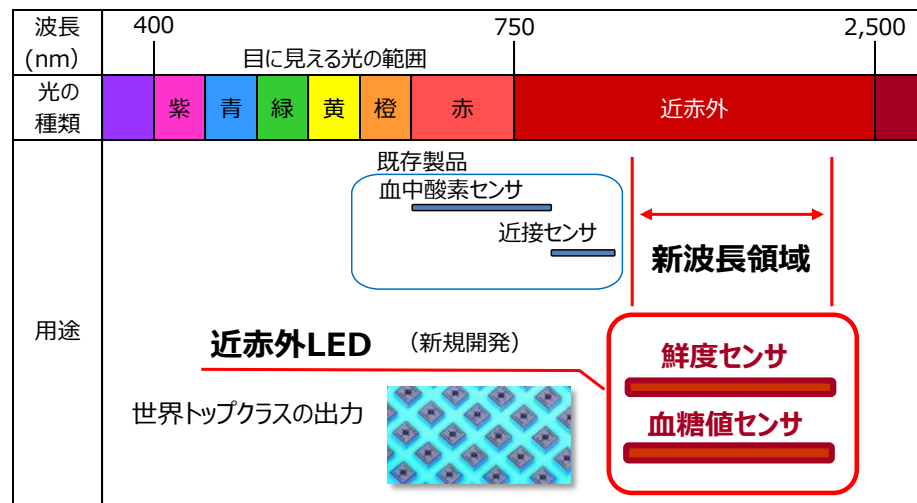
市場が立ち上がり、収益化のステージへ

電子材料④ 新規製品の進捗状況②

■ 近赤外LED

- ・ヘルスケア分野などで水分やグルコースなどの成分を測定できる光センサの需要が高まる
- ・従来のLEDでは実現困難だった新波長領域を出力するLEDを開発、鮮度センサ・血糖値センサ向けに製品化

→ ウェアラブル機器への搭載可能性が具体化、他社に先んじて機器への搭載を実現させる



搭載が想定されるウェアラブル機器



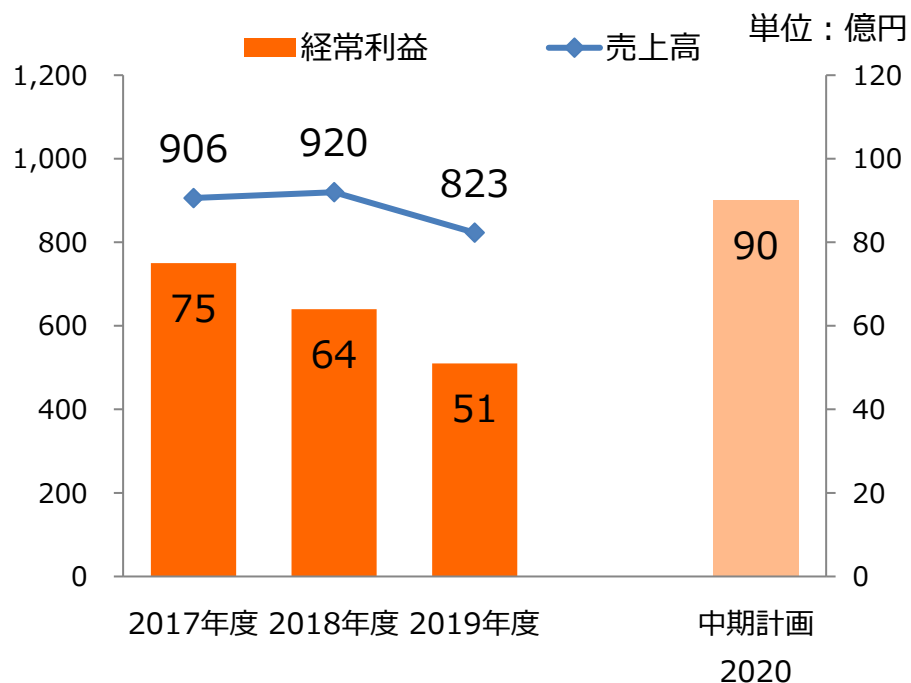
LED品質の合わせこみを迅速に進め、量産設備の建設投資を計画

金属加工① 事業概況（2019年度の振り返り）

事業環境の変化（中期計画比）

- ・車載部品：米中貿易摩擦を発端として、世界的に自動車販売が低迷
エコカー市場拡大により、電動化キーパーツのパワーモジュールが増加
- ・民生機器：2019年度は年間を通して低迷、情報通信機器は5Gモデル向けへの期待高まる
- ・産業機械：産業用ロボット向けは低調
- ・鉄道車両：先進国の更新需要や新興国の新線計画などにより、緩やかな増加傾向

KPIの進捗

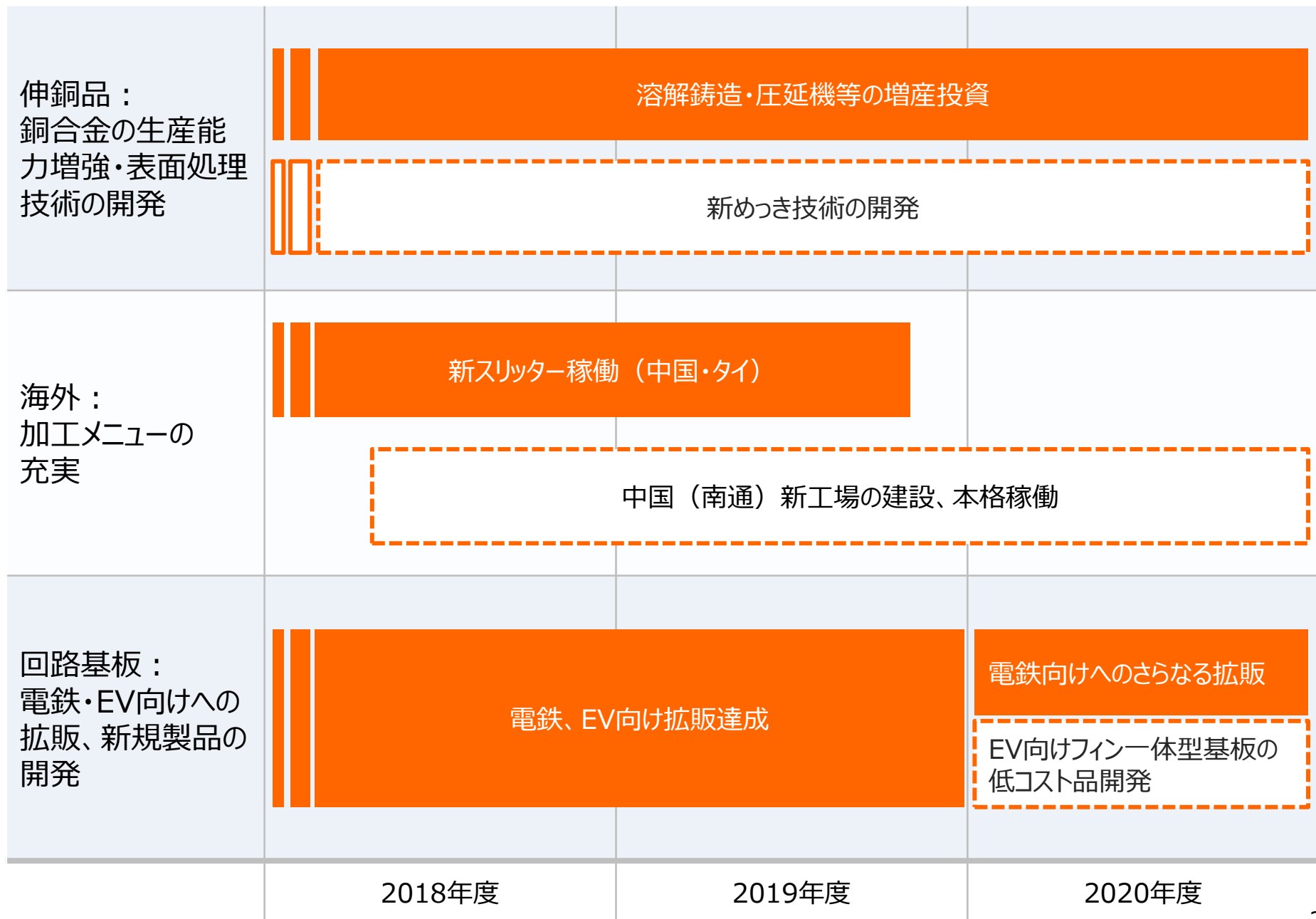


《主要製品の数量動向》

(中期計画2020 = 100)

	2018年度	2019年度	中期計画2020
伸銅品販売量 (自動車向け)	93	86	100
伸銅品販売量 (情報通信機器向け)	78	69	100

金属加工② 中期計画における主要施策の進捗状況



金属加工③ 中長期的な市場拡大を見据えた取り組み

■ 伸銅品

国内：高機能銅合金の増産投資を継続、生産能力を2割拡大（2017年度比）

中国：現地で加工・デリバリー拠点を拡充し、中国国内の新規需要を取り込む

南通市のすずめつき工場（中国第2拠点）は、2020年度中に稼働見込み

■ 新規開発

・新めつき技術の開発

新STARめつき

車載コネクタの多極化に伴う、自動車メーカーの生産性向上ニーズへの対応

→ コネクタ接続時の摩擦を3割低減し、滑らかな挿入を実現

銀-カーボン合金めつき

EV用充電ソケットの繰り返し使用での信頼性向上

→ めつき厚10分の1で5倍以上の耐久性を実現

・フィン一体型基板

EV向けパワーモジュール市場の拡大を捉え、低コスト基板の開発による収益性向上

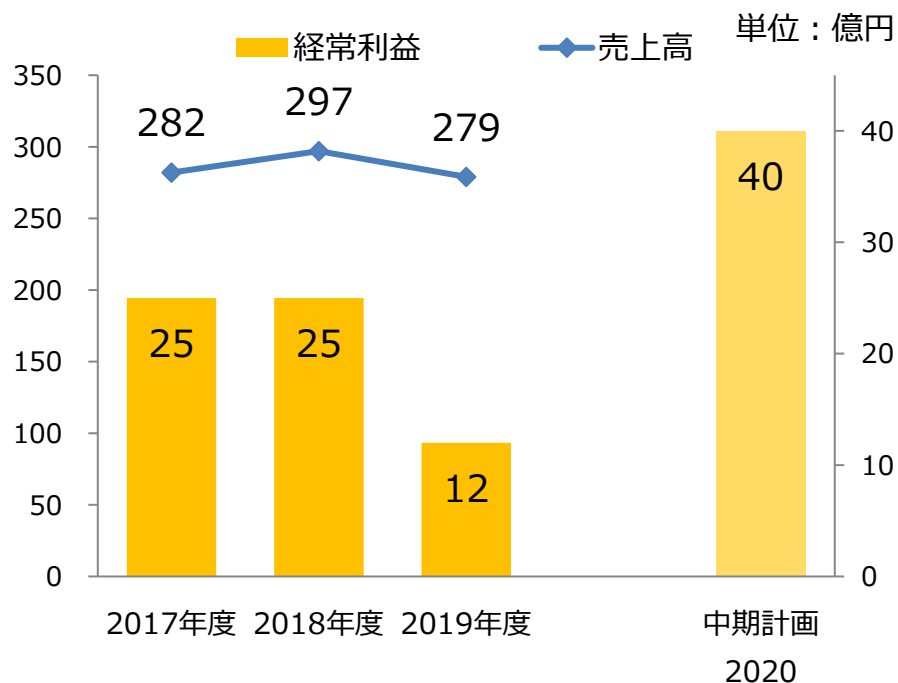


熱処理① 事業概況（2019年度の振り返り）

事業環境の変化（中期計画比）

- ・2018年後半より自動車生産は減少傾向、顧客の海外生産・現調化も遅延
- ・事業拡大を目指す海外地域（インド、メキシコ、ASEAN等）における減速が顕著
- ・世界的に自動車メーカーの減産・操業停止が進み、2020年初より、国内外拠点における受注が減少。先行きは一層不透明に

KPIの進捗



《主要製品の数量動向》

(中期計画2020 = 100)

	2018年度	2019年度	中期計画 2020
熱処理加工売上高	84	80	100
工業炉売上高	99	89	100

熱処理② 中期計画における主要施策の進捗状況



海外における現調化ニーズ対応

- ・ 自動車部品メーカーの中国・米国での増産計画は継続
→ 熱処理加工の需要拡大ペースに基づき、海外拠点の設備増強を推進

中国

- ・ 2018年度より設備増強に着手、顧客の増産計画が下方修正に
→ 増強計画を見直し投資を抑制、当面は顧客認定取得に注力する

米国

- ・ 2019年度に米国拠点での設備増強を決定
→ 新規設備を製作中、2020年度下期以降に量産準備を進める

新規案件の獲得

- ・ EV/HVに幅広く適用可能な電動駆動ユニットが数年内に量産開始
→ グローバル生産体制や受注実績を強みに、次世代新規案件の獲得を目指す
- ・ 自動車（部品）メーカーが国内外の生産体制を再構築
→ セル式真空浸炭炉・雰囲気浸炭炉の拡販、メンテナンス需要の獲得を図る

DOWA

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。